

第 39 回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 現在、輪島方面への一方通行となっている能越自動車道の「のと三井 I C からのと里山空港 I C」間については、来週 2 月 27 日(火)から、穴水方面の通行止めを解除し、対面通行できることとなった。

これと同時に、現在、県道柏木(かしわぎ)穴水線の「のと里山空港 I C から此木(くのぎ)交差点」についても、通行止めを解除し、対面通行できることとなった。

厳しい環境の中、昼夜を問わずご尽力いただいた国土交通省、県建設業協会の皆さんに改めて感謝申し上げます。

道路は、被災地の復旧・復興に不可欠なインフラである。引き続き、幹線道路から生活道路まで、早期復旧に取り組んでいく。

- 応急仮設住宅については、急ピッチで建設を進めている。来週 28 日(水)には、穴水町で 15 戸、能登町で 66 戸がそれぞれ初めて完成し、珠洲市でも 50 戸が追加で完成する。

さらに、翌 29 日(木)には輪島市で 28 戸が追加で完成し、今月末までに、奥能登 6 市町で 302 戸が完成する見込みとなった。着工は、本日時点、7 市町で 3, 103 戸となる。

引き続き、希望する被災者の皆さんが 1 日も早く入居で

きるよう、市町と連携し、応急仮設住宅の建設に全力で取り組んでいく。

- 被災地での一般の方々によるボランティアについては、本日時点で、事前登録者が約2万7千人に達した。その中から、これまで約3千9百人の方に活動していただいた。改めて心から感謝申し上げる。

現在、ボランティアの方々には、日帰りで金沢からバスでまとまって被災地に入っているが、奥能登地域では金沢からの移動に時間を要し、現地での活動時間の確保が課題となっていた。

この度、穴水町のご協力により、旧穴水町立向洋中学校の校舎を使わせていただけることとなった。最大約100名を収容できる宿泊拠点「石川県災害ボランティア 奥能登ベースキャンプ」として、26日（月）から運用を開始する。明日から事前登録いただいた方を対象に参加者を募集する。

このベースキャンプを拠点に、1泊2日のボランティア活動を実施することで、1日8時間の作業が可能となり、片付け等の進捗が図られることとなる。

今後とも、様々な工夫を凝らしながら、ボランティア活動を支援していく。

2. 会議最後の発言

- 多くの被災者が、一日も早く地元の応急仮設住宅への入居を望んでいる。更なる仮設住宅の建設に向けて、市町で土地の確保を進めていただき、建設を加速してください。

- 今年度の最終の補正予算（第2次3月補正）の発表が、27日（火）であり、残り僅かとなっている。先週、令和6年度当初予算に併せて令和5年度第1次3月補正予算を編成したばかりではあるが、一日も早い復旧・復興のため、追加で必要となる地震関連の予算は、漏れなく盛り込んでください。
- 発災以来、多くの職員が災害対応に注力している。職員の時間外勤務が大幅に増加している。管理職の皆さんには、部下の職員の健康面への気配りをお願いしたい。
- 来週26日（月）は、10時30分から、今回の地震における物資の支援についての県民記者会見を行う。
- 本日、県議会が開会し、今後、各市町の議会も順次開会する。議会と震災対応の両立を図る必要がある。今後、この災害対策本部員会議については、原則、週1回の開催としたい。